

◆ディアマンテス 歌手 アルベルト城間

ペルーで生まれ育った。幸せだっていう思い出しかなくて。沖縄からペルーに渡ってきた祖父母、育ててくれた父、母、そして1世2世である家族を受け入れてくれたペルーに本当に感謝している。元々、歌手になりたかったが、神父、教員、建築の道に進むことが求められ、最終的に建築大学に進学することにした。

ペルーには中流層がいる一方で、教育も受けられず、満足に食事もできない貧困の人も多くいる。アンバランスな社会は、時に「自分さえよければ」という欲望や暴力につながることもある。大学の頃にその現実を目の当たりにした。ストレスや疲労から引きこもってしまう時期もあったが、日系人の合唱団に参加して音楽に救われた。その後、コンテストに優勝し、賞品で得た航空券で来日した。

沖縄に移住し、古典音楽の先生に出会い三線を習う。「かぎやで風」は4行しかないが、演奏は5～6分かかる。先生に「なぜ長いのか」尋ねると、花が咲くこの瞬間の幸せのようなものを表現しているということが分かった。「ああ、これは平和だ。沖縄の人たちの心はここから始まったんだ」と心を打たれ、「沖縄で歌手になるならば、これはちゃんと知らない」と心に誓った。1991年に「ディアマンティス」を結成し、沖縄のその辛い思いを二度と繰り返さないようにとの思いで音楽で頑張っていこうと思った。

沖縄で結婚し、娘も生まれた。家が普天間飛行場の近くで、戦闘機などの騒音に幼い娘は怖がってカーテンにしがみついていた。「娘に沖縄の空を返してあげたい」との思いで、作曲したのが『この青い空を君に』だ。

参加者の声

- ・皆さんののはなしや歌声を聞いて、いろいろ想像してしまい、ホロリと来てしまいました。情報が大量にすごい速さで流れてくるこの時代、何が大切か分かりづらいですが、今日のイベントに参加して、平和についてまた強く考えました。沖縄の、日本の、世界の平和に、一個人で出来ることは限られますが、身の回りの人に今日のイベントの話をして、この想いを少しでも広げていきたいです。またイベントがあったら、周りを誘って参加します！
- ・普天間さんの話から、日常の話から戦争に関する話をし、戦争をさせない立場で話し合うこと。よく考えると、とても良いお話だった。非戦の立場の直接的すぎる話しより日常をふまえたお話がとてもよかった。受け取る私の方がもっと考えることだなと思いました。
- ・私は戦争というものが身近にないので、こういったシンポジウムに参加することで平和について深く考えることができました。今回のシンポジウムでは「ボランティアは自分のため」という言葉が心に残りました。平和を伝えていくことは、人のため、人の意識を変えるために大切であるけれど、自分の幸福のためにいろんなことに挑戦していきたいです。
- ・私も沖縄出身者で、本土の人と平和への意識の差を感じてましたが、少しでもきっかけを作って行動していきます！
- ・登壇者の方々のパーソナルヒストリーも興味深く魅力的でした。平和というのは戦争でない状態のことだけでなく、ひとりひとりが自分のできることで他者を幸せにする日常だと思えました。トークショー＆音楽ライブなどの形で他会場でも催したら輪が広がりそうです。

関連情報



DIAMANTES
ホームページ



NPO法人ジャパンハート
ホームページ



ひめゆり平和祈念資料館
ホームページ

アーカイブ配信について

本シンポジウムの模様をアーカイブ配信にてご覧になれます。詳しくはP54をご確認ください。

長野県・沖縄大学生ゆんたく会



届けた、うむい（思い）

長野県内の戦跡調査や、戦争経験者への聞き取りを行っている長野大学の山浦ゼミの学生8人と沖縄県内の高校生・大学生10人で各県の取り組みについて共有した。長野県側からはゼミで取り組んでいる戦争継承に向けた取り組みと、沖縄県側からは遺骨収集などを行う名桜大学のサークル「ぐるくん」、ひめゆり資料館との学びを深めている向陽高校の取り組みを紹介した。最後には戦争経験者の数が減ってきている中、最後の世代として、同世代・次世代にどのようにアプローチし、戦争の経験を継承していくか共有する時間となりました。

📷 キャプション

イベント概要

日時：11月4日（土）
時間 10：00～12：00
場所：沖縄ZOOM会場（JICA沖縄）
形式：オンライン形式によるプレゼン＆ワークショップによる対話
参加者：24人
（高校生、大学生、関係者、メディア含む）

長野大学学生および教員、名桜大学、
沖縄キリスト教学院大学、沖縄国際大学、
向陽高校、小禄高校、那覇国際高校
長野県庁職員、沖縄県庁職員、メディア記者

イベント内容

- 沖縄平和啓発プロモーション事業説明
新垣耕 班長（女性力・平和推進課）
- 沖縄県・長野県クイズ
- 実践共有
 - ・長野大学山浦ゼミ学生実践紹介
 - ・ぐるくんの活動紹介
 - ・向陽高校の活動紹介
- ゆんたくタイム



📷 沖縄・長野クイズ

企画した大学生・若者の声（沖縄）

昨年から引き続き、2回目の実施となりました。長野大学の実践報告で、昨年度の実施後に長野県と沖縄県側の参加者との交流が生まれたとあり、このプログラムから広がりが生まれていることに嬉しく思った。

今年度は大学生に高校生も加わり、また、名桜大学と向陽高校の実践報告も行う事ができ、新たな視点から戦争の記憶を継承する方法について話し合うことができたのではないかと思います。

今後もこのつながり続けていき、一緒に学び合っていきたいと強く思いました。

学業が忙しいなか、プレゼンテーションの準備をしてくれた長野大学、向陽高校、名桜大学の生徒・学生の皆さんや指導して下さった先生に大変感謝しております。

（ファシリテーター神山怜奈）



📷 長野・沖縄県の集合写真

参加大学生の声

- ・沖縄と長野県の戦争に対する思いの共通点や、少し異なった価値観に触れられてとても良い時間を過ごせました。沖縄の方の話を聞いたことで、より戦争に対する考えが深まりました（長野大大学生）。
- ・語り継いでいく際の注意点などを学ぶ機会もあり有意義だった。また、ディスカッションを通して平和学習に関する地域差というものを感じた。この地域差について非常に問題だと考えた。それに対するアクションとしてゼミの活動を注力して私自身も平和について考えるきっかけづくりをしていきたい（長野大大学生）。
- ・沖縄では、沖縄の人との平和学習のみ行われることが多いので、県外の方、そして高校生との平和学習ディスカッションは凄く新鮮でした。それぞれが自分の意見をしっかり持ち、皆が同じ気持ちなのだ、と感じることができ、より1層平和に向けて自分ができることを追求していこうと思いました（沖縄側の参加学生）。
- ・沖縄県以外の取り組みを知ることができ、自分が今まで取り組んできたことも共有できたのでとても良い経験になりました。また、他の人の意見も聞くことができたので今後の活動に活かしたいと思いました（沖縄側の参加学生）。

長野・沖縄の学生を3グループに分けて、平和のためのアクションプランを話し合い、全体共有を行いました。

テーマ 「平和継承に向けてのアプローチ」

📷 各グループからの発表資料



平和教育指導者養成講座

～戦跡フィールドワークを通じた学びin読谷村～

届けた、うむい（思い）

教育現場を実際に持つ教育者及び関係者が集い、平和教育のネットワーク構築や、平和教育教材開発・カリキュラム開発を2日間に分けて行いました。1日目は地域（読谷村）の戦績をめぐるフィールドワークを中心に、2日目は教材開発を中心に実施しました。読谷村史編集室の中田耕平さん（〇～〇頁ご参照）にご協力を頂きました。



イベント概要

日時：7月8日(土)～7月9日(日)

時間 10：00～12：00

場所：読谷村役場読谷村内戦跡など

形式：オンライン形式によるプレゼン＆ワークショップによる対話

参加者：12人

(大学生、学校教員、市議会議員)

平和教育指導者養成講座 内容

〇1日目(7月8日)

①フィールドワーク(午前の部)

忠魂碑 ▶ 掩体壕 ▶ チビチリガマ ▶ シムクガマ

②お昼休憩@楚辺公民館

③フィールドワーク(午後の部)

艦砲め喰えー残さーの碑 ▶ 憲法9条の碑 ▶ 飛行場返還の碑 ▶ 平和宣言の碑見学 ▶ 屋良朝苗銅像

④ふりかえり

〇2日目(7月9日)

①前日の振り返り

②座喜味城跡見学

③ユンタンザミュージアム見学

④平和教育の教材・プログラム作成

⑤発表

成果

平和教育指導者養成講座参加者

12人

読谷村における
戦績フィールドワーク

・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された

アンケート結果

本事業を通して平和への理解が
高まった (とても高まった・高まった)

100%

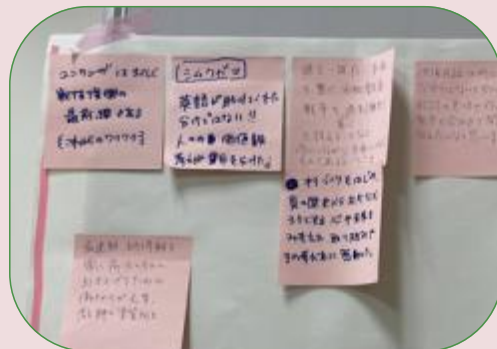
参加者の声

- ・1日目に続き、中田さんの解説のおかげで深く学ぶことができました。また、ガマのワークショップや宮平様の全作品を準備していただくなど、受講者の急な要望にもご対応いただいたことで、とても充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。"
- ・読谷の歴史を知ること、沖縄戦を含む現在に至るまでの大きな流れが繋がっていることを実感できたので、とてもよい研修でした。また、教材の一つ考えることができたので、夏休み明けに実践してみたいと思います。
- ・座喜味城址について、戦争そして米軍占領下のことについて初めて知りました。戦争は信仰も壊すこと、文化や遺跡が無残に壊されてしまうことを改めて実感することができました。
- ・今回のワークショップを通して、自分自身、戦争を自分事として実感できる様になりました。中田さんの詳しい説明を通し、現役の先生方の視点もとても勉強になりました。

◎ 講師のコメント

中田耕平

アンケートがしっかり取れている点が素晴らしい。(読谷以外の地域も知りたいという感想を受けて) 沖縄本島北部や離島など、マラリアの経験といったそれぞれの沖縄戦があり、地域の沖縄戦を学ぼうとする姿勢はとても良い。今後、そのような発展があれば自分も学びたい。2月の読谷での「学びフェスタ」などを通して、継続的に県の事業と平和の発信に取り組んでいきたい。



艦砲め喰え残さー

ねらい：戦前～戦後の沖縄の人々の苦悩を知る

対馬丸、沖縄戦、土地接收

すすめ方

①沖縄戦を知る
ガマのワークショップ



②比嘉恒敏さんの
人生について説明



③でいご娘
「艦砲め喰え残さー」を聴く



④感じたことを話し合う



作成した背景

平和教育指導者養成講座で読谷村史編集室の中田耕平さんから「艦砲め喰え残さー」と比嘉恒敏さんの人生を合わせて説明していただいたときに、歌詞の内容と恒敏さんの人生に圧倒された。大阪での出前授業が決まった時に、恒敏さんが暮らしていた大阪の生徒たちにどうしても伝えたいとの思いで教材を作成した。

作成のプロセスと気づき

教材作成の過程で、あたためて「艦砲ぬ喰え残さー」を何度も繰り返し聞くことで、歌詞の内容の理解が自分の中でより深まっていった。

艦砲ぬ喰え残さーという言葉の意味だけを開設するのではなく、その言葉を使うときの沖縄戦の生存者の心情や背景も併せて紹介することで、よりこの言葉の持つ意味を深く理解できるのではないかと思った。

その後の展開や変化

艦砲ぬ喰え残さーの授業は、出前授業の中の流れの1つとして、紹介しているが、今後は艦砲ぬ喰え残さーと比嘉恒敏さん、曲を歌い続けているでいご娘などをメインとした教材作成を目指したい。

作成者の感想

沖縄県の子どもたちなら平和を願う「沖縄のこころ」がどんなものなのか自然と理解できるが、県外で出前授業を行う中で、子どもたちにいきなり沖縄戦の話をして前提知識の量が違う為、どうしても自分事として考えてもらうのは難しいと感じることがあった。この曲と比嘉恒敏の人生を合わせて学ぶことで、県外の子供たちでも、なぜ沖縄の人々が強く平和を願っているのか、ということを理解しやすいのではないかと。その上では非常に効果のある教材ではないかと思う。

○ユンタンザ楚辺チャンネル



比嘉恒敏さんとでいご娘の出身地読谷村の楚辺で行われた「第4回平和コンサート」の動画。沖縄戦から比嘉さんの人生までわかりやすくまとめられた動画や、曲のウチナー〇と日本語訳の両方が字幕があり、授業で活用しやすい。

○艦砲ぬ喰え残さーの歌碑



読谷村楚辺集落にある艦砲ぬ喰え残さーの歌碑。「一人一人の中に艦砲のような物語がある。この歌が子や孫の時代になっても歌い継がれてほしい」との思いから楚辺集落の人々の手によってつくられました。ボタンを押すと曲が流れる仕組みになっています。授業を行う前に、一度は訪れてみるというのではないのでしょうか。

すすめるうえでのヒント！

歌詞がうちなーぐちで書かれているので、9月18日のしまくとぅばの日に合わせて国語の授業、「幅広い言語に関する能力を培い、地元の言葉や文化に対する理解を深める」という視点から英語の授業、郷土の音楽に触れるといった視点から音楽の授業など、社会科の授業に限らず幅広い授業で扱えるのではないかと思う。

執筆者：神山 怜奈(株式会社うなあ沖縄)

平和教育指導者養成講座

～第32軍司令部壕 教材作成フィールドワーク～

届けた、うむい（思い）

第32軍司令部壕のフィールドワークをした後に、それについての教材案を考える時間を設けることで、教育関係者や平和教育に関心ある方々と共に、教育現場で使えるガイドブックの制作を目指します。

また、沖縄県が実施している第32軍司令部壕の保存と公開に向けた取り組みを教育関係者に紹介し、最終的には本講座で作成した教材を実施することで教育関係者を通じて児童・生徒へ広く伝えてもらうことを目的に実施しました。



イベント概要

日時：2月10日(土)
時間：9:00～15:00
場所：首里城周辺、沖縄県立芸術大学
形式：フィールドワーク、
教材作成ワークショップ
参加者：11人
(大学生、学校教員、ガイドなど)

平和教育指導者養成講座 内容

- 第1部 第32軍司令部壕フィールドワーク
[第32軍司令部壕フィールドワーク等委託業務事業]
 - ① 事業説明
 - ② フィールドワーク
 - ③ アンケート
- 第2部 第32軍司令部壕 感想共有・教材作成
[沖縄平和啓発プロモーション事業]
 - ① 午前中の振り返り
 - ② 教材案作成

成果

平和教育指導者養成講座参加者

11人

第32軍司令部壕
フィールドワーク

・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された

アンケート結果

本事業を通して平和への理解が
高まった（とても高まった・高まった）

100%

参加者の声

・色々な視点でのお話を聞けてとても深い学びの時間になりました。戦争遺跡の保持をこれからも続けて頂きたいです。応援してます。

・先生だけじゃなく、いかに後世に伝えていけるか、という市民の視点で考えることができた良い機会でした。これから、私がどう、生きていけば良いのか、考え直すきっかけとなりました。がんばります。

・色々な視点から話を聞くことができ、たくさん、アイデアをもらいました。教員が学ぶことを中心とした講座があるとありがたいです。教材開発の前に教員自身が知らないことが多すぎると感じました。

講師（ファシリテーター）の声

・首里城のことは知っていても、第32軍司令部壕のことはあまり知られることがないままにいることは、沖縄戦後を継承していく意味でも重要であると思う。

今回の企画は、まずは教育現場を持つ教育関係者に集って頂き、どのように学校現場で教えていくのか、カリキュラム開発と、教材研究を進めていくことから進めていくことが始まった。午前中は、先生方にガイドの方と共に第32軍司令部壕を回って頂き、午後は、県立芸術大学にて集い振り返り、伝えるテーマ、それぞれの現場における教材研究について考える時間となった。はじめの一步が歩みだされたので、次年度以降、実際に実践を積み重ねていくなか、教材化を目指していくことが今後期待されると思う。

執筆：玉城直美（株式会社うなゑ沖縄）





受講者コメント

- ✓実際に訪れることで感じられたことがたくさんあった(気温や大きさ、静けさを含めた音など)ほか、中田さんのガイドがたいへん
- ✓楚辺公民館のジオラマを見て、あれだけの集落が丸ごと移動したというのが信じられません。土地の接収は言葉でイメージし、戦争の被害が本当にたくさんあるんだなと思いました。
- ✓読谷の平和学習が、過去だけでなく現在、未来に繋げていること、印象的でした。

戦跡フィールドワークを通じた学びin読谷（7月8～9日）
ガイド：中田耕平さん（読谷村史編集係職員）
詳細は43ページへ



素晴らしく、質問も思い浮かばないくらい学べました。

ていたよりも、大きくて、命を奪うだけではない

読谷フィールドワーク マップ



出典：読谷村

START



01 座喜味城跡

護佐丸により 1420 年頃築城。
1943 年北(読谷山)飛行場が建設され、
座喜味城跡には高射砲部隊配備されて
いた。戦後は米軍のレーダー基地とし
て接收され1974 年に返還。2000 年に
「琉球王国のグスクおよび関連遺産
群」として世界遺産へ登録。

住所：読谷村字座喜味708番地6



座喜味城跡に駐屯した日本兵



02 ユンタンザミュージアム

1Fでは自然・文化遺産を、2Fでは考古・
民俗・自然・沖縄戦について展示を
行っており、その中でガマや亀甲墓等の
ジオラマを通して詳しく学ぶことができ
ます。

住所：読谷村字座喜味708番地6



ミュージアム沖縄戦部分の展示より。チビチリガマ内部、状況を再現したジオラマ。



ユンタンザミュージアムHP



04 掩体壕

日本軍によって北飛行場に造成されたコンクリート格納庫。現在残っているのは1基のみとなっている。

住所：読谷村座喜味
お問合せ先：ユンタンザミュージアム
TEL：098-958-3141



05 チビチリガマ

1945年4月2日米軍上陸の翌日「集団自決」（集団強制死）により避難住民約140人の内83人が亡くなった。犠牲者には多くの幼児が含まれている。

住所：読谷村字波平1153



1945年4月上陸後米軍が撮影した忠魂碑

03 忠魂碑

読谷山尋常高等小学校敷地内に1935年建立。従軍戦没者を国、天皇のために戦い亡くなった尊い英霊として顕彰し称える碑。県内各地の慰霊碑とはその建立の意味において対照的。

住所：読谷村座喜味
お問合せ先：ユンタンザミュージアム
TEL：098-958-3141



06 シムクガマ

沖縄戦時約千人の住民が避難しハワイ移民帰りの比嘉平三氏、比嘉平治氏が主導し米軍へ投降。米軍の戦車砲によって亡くなった3人以外は皆助かった。

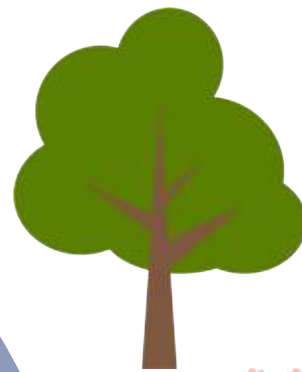
お問い合わせ先：
読谷村 波平公民館(読谷村字波平61)
TEL:098-958-2229



08 憲法9条の碑

読谷村遺族会、老人クラブ連合会、婦人会、議会、青年団協議会、児童生徒一同による不戦を誓った宣言が刻まれており、多くの人命が奪われた沖縄戦の経験から二度と戦争を繰り返さないことを決意表明し、日本国憲法の平和主義や非核三原則の遵守を訴えている

住所：読谷村座喜味2901（読谷村役場）



09 屋良朝苗像

初めて公選によって選出された沖縄県知事である屋良朝苗氏の功績を顕彰する銅像。同氏は戦前から教員を務め、戦地に教え子を送ってしまった反省から、戦後沖縄の教育に尽力。政治家に転身後は、平和な沖縄の実現を求め、日本復帰を主導した。読谷村瀬名波出身。

住所：読谷村座喜味2901（読谷村役場）



07 読谷村役場

現在の役場庁舎は、1997年当時まだ米軍基地だった読谷補助飛行場内に建設された。2006年に同飛行場が全面返還され、役場周辺を村民センター地区と位置づけ整備が進む。米軍基地を返還に導いてきた読谷村の村づくりを象徴する施設で、役場敷地内には平和について思いをめぐらすことができる複数のモニュメントも位置する。

住所：読谷村座喜味2901（読谷村役場）

読谷村の戦跡やそれに類する場所をめぐってみると、戦中から戦後そして現在に至る一連の過程がよくわかります。沖縄戦における日本軍による飛行場建設をはじめとした陣地構築を起点として、一般住民を巻き込んだ地上戦の実相と明暗、戦後米軍基地接収とそれによる苦難、そしてそこからの脱却を目指し米軍基地返還へと導いていった平和運動の実践を学ぶことができるのが、読谷村での平和学習の最大の特徴です。